

高岡・砺波地区大会を終えて

8月21・22日に、高岡文化ホールにて高岡・砺波地区高等学校演劇発表会が行われ、新湊高校は優秀賞を受賞し県大会出場が決まった。

今回、2年生2人、1年生5人で臨んだ劇は「アルプススタンドのはしの方」。キャストをやりたい人は男1人女3人。この人数で探していて偶然見つけたこの劇。出会ったとき、衝撃が走った。すごい劇に出会ってしまった、と。中間考査頃までは創作劇をつくろうと意見を出し合っていたが、なかなか先に進まない不安の中、並行して既成台本も探すことになり、この台本に出会ったのである。

今年は、キャストの中で演劇経験者は2年生1人。演劇の経験が豊富な彼は、役作りがうまい。自然な演技を次第に身につけ、面白い演技も作り出した。一方1年生3人は、演劇初心者。とはいえ、やる気は半端なくある。練習中に厳しい言葉をかけられても、泣かない、めげない、改善し良くなろうという向上心が高い、見事にポジティブな3人だった。自分の演技を指摘されると自信を無くすことが多いが、彼女たちはそれ以上にうまくなりたいという気持ちが強かったのではないかと思う。台詞が入ってくると、指摘されたことに対し、次の練習には改善できていることが多くなった。家でかなりたくさん練習したのだと思う。また照明の1年生2人は、照明を考えてしまえば普段は照明の仕事はない。そこで、キャストの1年生がセリフを覚えられるように、代わりに台本に書き込んで気づいたことを指摘する役をしてくれていた。顧問の私がやれと言った覚えは全くない。これを自分たちでやりだしたから1年生のチームワークには驚かされる。最強の1年生5人である。そして最後にスタッフの音響の2年生。マニアックなくらいに機器に詳しくこだわりが強い。だから納得いくまで音づくりに励んだ。この劇は音響がものすごく大変である。おそらく彼女がいなかったらできなかったのではないかと思う。

さてこの劇、やってみて分かったが、セリフを覚えるのがとても難しい。同じような言い回しが多いからだ。そしてボールを追う視線も合わせなければならない。そのためには野球のルールも分かっていないといけない。7月後半に、部員皆で本校の野球応援に足を運んだ。部員達にとっては勉強会。喉の渇き、椅子や手すりの暑さ、野球のルールや視線確認、試合後の選手達の様子など、たくさんのことを体感し学んできた。期末考査が終わるといよいよ台詞を覚え始めたが、そこからが大変だった。セリフを覚えないと細かい役づくりができない。それでもキャストの努力の甲斐あり、なんとか本番に臨める状態になった。本番は、間の取り方や表情、セリフの言い回しなどキャストは練習の成果を十分に出し切った。音響・照明も練習ではまだ不安要素があったが、本番はとてもスムーズだった。上演後、キャストの目には涙が。緊張から安堵へ、そしてまだ残る劇中の役の熱い思い・・・いろいろなものが混ざっていたのかもしれない。

他校の生徒たちからは「身震いをしてしまうほど圧巻な演技」「音源がリアルで臨場感がすごかった」など、たくさんの感想をいただき、審査員の先生方からも、たくさん褒めていただいた。もちろん改善すべきポイントもいただいたので、県大会までの作品づくりにそれをどう生かしていくかである。しかしながら、誰からどんな助言をもらっても、最終的にこれが一番だと判断するのは役者自身。いろいろな方法を試してみて、自分たちで悩みながら納得いくまで追求して欲しいと思う。舞台を通して観客の心に何か残したい、それが部員達の願いである。

最後に、忙しい中、今回の劇のリハーサルや本番で大道具の仕込みを手伝ってくれた2年生の助人3人、そして3年生部員のみんな、本当にありがとう。部員たちにとって本当に心強かったと思う。そして、日々ご家庭で見守り応援してくださっている保護者の皆様に、心から感謝いたします。

◎ 上演後 部員の感想から（抜粋）

めっちゃめっちゃ緊張した。いつもの自分達らしく楽しく演技できた。みんな頼もしかったので安心して演技できた。

練習通りに楽しく本番で演技できた。もう少しリラックスできたらよかった。

ちょっとだけセリフが抜けてしまったけど、本番では自然と気持ちが入って今までにないくらい感情を込めることができた。練習中は大変に感じるが多かったけど、終わったらなんか楽しかったのでOKです。視線の練習をもっとやりたい。

ところどころセリフを抜かしてしまっただけど、ごまかして後につなげることができてよかった。今日のラストのセリフは今までで一番納得のいく言い方ができた。滑舌が心配だったところがたくさんあったから直していきたい。

今までの練習の成果が出たと思った。音と演技のタイミング合わせの練習をもっとすればよかった。

練習通りに楽しんでやることができた。練習で間違えた照明のタイミングを本番では改善できた。

時間はいつもより短かったけど、セリフもスムーズに言えていてよかった。最後の緞帳を下ろすタイミングがちゃんと合っていたのでよかった。

